

平30年度 岩出小学校 学校評価シート

教育目標	人権尊重の精神を基盤に、知徳体の調和のとれた児童の育成を図る			学校名	岩出市立岩出小学校	校長名	原 寿宏
目指す学校像	地域と共に歩む学校	目指す児童像	校訓「強く、正しく、むつまじく」を体現する児童 夢と希望をもち自ら進んで学習する子供、自分も友達も大切に思いやりのある子供、心身ともにたくましくねばり強く挑戦する子供				

本年度の目標	1	知:「確かな学力」の定着・向上	達成度	A	十分達成した(90%以上)	学校評価の結果と改善方策の公表方法 学校ホームページで公表 校報「絆(きずな)」で周知
	2	徳:「豊かな心」の育成 (自分も他の人も大切に作る心を育てる)		B	概ね達成した(80%以上)	
	3	体:「健やかな体」の育成 (体力・運動能力の向上、運動習慣の定着)		C	あまり十分ではない(70%以上)	
	4	地域と共に歩む学校づくり (開かれた学校づくり/コミュニティ・スクールの推進)		D	不十分である(70%未満)	

自 己 評 価				学校関係者評価					
重 点 目 標				年度評価 (平成31年2月22日現在)					
番号	現状と課題	評価項目	具体的な取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への改善とその方法	意見・要望・評価等	
1	知	日々の授業を大切に、弱点を克服するため、補充学習などにも取り組んでいる。しかし、全国学調の過去5年の結果から、算数・国語、AB共に全国平均を下回っており、特に国語に課題がある。また、市・県の学力調査でも、学年・教科により課題がある。	下記調査の該当項目(別添参照) ◆学校評価調査票(教員)及び(保護者) ◆学習と生活に関する児童アンケート	①基礎基本の定着(朝学、補充学習、家庭学習等での復習の徹底) ②弱点の分析・指導方法の工夫改善 ③子供の理解に即した学習指導	①② 左記調査(保護者)「学校は基礎学力向上に取り組んでいる(A)」の4及び3評価合計が85%以上、「子供は、授業が楽しく分かりやすい」と言っている(B)」の4及び3評価合計が90%以上 ③ 左記児童アンケートで、「学習」に該当する全項目(1~8)(A)の4及び3評価合計の平均が85%以上、「国語(B)・算数(C)・理科(D)の授業がよく分かる」の割合が90%以上 ◆左記調査(教員)の「1」に係る該当全項目の4及び3評価合計の平均が90%以上	①② A:94% B:82% ③ A:1学期79.8%・2学期80.0% B:1学期90.3%・2学期86.3% C:1学期90.6%・2学期87.3% D:1学期86.8%・2学期85.6% ◆「1 確かな学力の定着・向上」:78%(ICT環境が整備されておらず、その活用が低かったため、全体としての評価が下降)	A-	「思考力」育成の授業改善に取り組んできたが、関連項目の自己評価が他の項目に比べ低目に出ており、引き続き、この点を意識しつつ、更なる指導方法の工夫改善に取り組んでいく。	◆人権尊重の精神を基盤に教育活動を進めていくためには、教員自らが人権感覚を研ぎ澄ませるよう努めるとともに、子供たちのやる気を喚起しつつ、自尊心をくすぐるような言葉がけをお願いしたい。 ◆家庭学習(宿題)は、量もある程度必要だと思うが、その質を高めることも大切ではないか。また、下校後、着替えもせずすぐに遊びに出る児童も見受けられ、家庭学習の習慣づけに課題がある。 ◆遅刻が多いとのことだが、登校時刻が総体的に早くなってきており、遅刻は以前に比べ少なくなってきた感もある。しかし、極端に登校の遅い児童や自家用車での送迎が増加傾向にある。 ◆登下校時の子供同士の喧嘩やトラブルは、以前に比べ少なくなってきた。 ◆スマホ等の使い方について、より一層の指導が必要であり、取り組んでもらいたい。
2	徳	各学年・学級で、自分の気持ちを相手に伝えることのできる環境づくり(間違っただとしても許し合える人間関係づくり)に取り組んでいる。しかし、日々、些細なトラブルや喧嘩がある。また、自己肯定感や自己有用感の低さ故の問題行動や、学校の決まり・交通ルールなどが守られていない等の状況がある。	下記調査の該当項目(別添参照) ◆学校評価調査票(教員)及び(保護者) ◆児童いじめアンケート	①一人一人の気持ちに寄り添い、子供たちが仲間を大切にできる学級経営に取り組む。また、日々のトラブルに対しては、双方の言い分を丁寧に聴き、互いに納得のいく指導を行う。 ②いじめアンケートを実施する。(年3回/学期に1回) ③毎月の欠席状況を把握し、SSWなどと連携し、定期的にケース会議を開催するなどし、気になる児童への関わり方について話し合う。	①② 左記児童アンケート「学校が楽しいと感じる(A)」の割合が95%以上、左記調査(保護者)「子供は学校に行くのを楽しみにしている(B)」の割合が90%以上、アンケート実施後のいじめ解消率100% ③ 不登校を0に近づける、不登校気味児童の欠席日数を減少させる ◆左記調査(教員)の「2」に係る該当全項目の4及び3評価合計の平均が90%以上	①② A:1学期94.1%・2学期94.6% B:94% 解消率:100%達成 ③ スクールカウンセラーや不登校支援員等と連携を密に対応し、一部改善が見られた。しかし、長期傾向にある児童に対しては引き続き丁寧に対応していく必要がある。 ◆「2 豊かな心の育成」:88%	B+	すべての児童が学校生活を楽しく過ごすことができるよう、児童個々の気持ちに寄り添いつつ、その人格を尊重した丁寧な関わりに努めていく。また、不登校にある児童に対し、関係機関等との連携をより一層密にし、組織的に対応していく。	
3	体	子供たちは概ね規則正しい生活が送れているが、学年を問わず遅刻が多く、また、高学年になるほど夜遅くまで起きる。運動能力に関しては、全国スポーツテストで平成26年度のAB層合計49.7%をピークに、その後、35%前後で推移し、やや低止まり傾向にある。	下記調査の該当項目(別添参照) ◆学校評価調査票(教員)及び(保護者) ◆学習と生活に関する児童アンケート	①「早寝・早起き・朝ご飯」を推奨する。(家庭と連携して基本的な生活習慣の定着を図る。) ②「学習と生活に関するアンケート」を実施する。(年3回/学期に1回) ③「朝トレ」や「はつらつタイム」をはじめ、季節に即した取組(長距離走など)を計画的に実施するとともに、運動場での外遊びを推奨する。 ④全国スポーツテストを徹底実施する。	①② 左記児童アンケート、「毎朝、7時までに起きていた(A)」の割合90%以上、「毎日、朝ご飯を食べた(B)」の割合が90%以上、「毎日、決められた時刻までに就寝した(C)」の割合が70%以上 ③ 「朝トレががんばり賞(A)」獲得児童数(のべ150人以上) 左記調査(保護者)「学校は運動習慣の定着、体力向上に取り組んでいる(B)」の4及び3評価合計が90%以上 ④ 全国スポーツテストで、A層の割合が10%以上、AB層の合計割合が35%以上 ◆左記調査(教員)の「3」に係る該当全項目の4及び3評価合計の平均が90%以上	①② A:1学期91.1% ・2学期86.3% B:1学期91.1%・2学期92.5% C:1学期67.1%・2学期63.1% ③ A:150人(2学期末) B:97% ④ A層:10% AB層合計:35.5% ◆「3 健やかな体の育成」:95%	A	早朝トレーニングへの参加、基本的な生活習慣の定着、遅刻の削減等に関しては、家庭の協力が絶対不可欠であり、愛育会の協力を得ながら、保護者への啓発活動を行うとともに、児童会活動等を通じて、全校児童の意識啓発を行っていく。	
4	コミスク	来年度からのコミュニティ・スクールの導入に向け、保護者や地域にその趣旨を説明・理解を得るため、学校の取組や児童の様子を広く周知するとともに、学習支援組織や意見交流の場を創設するなど、体制を整備していく必要がある。	下記調査の該当項目(別添参照) ◆学校評価調査票(教員)及び(保護者)	①校長が毎月「校報・絆」を発行する。また、各学年ごとに毎月通信を発行する。 ②取組をマスコミを通じて広報(情報発信)する。 ③学校支援ボランティア等外部人材を活用した取組を推進する。	① 左記調査(教員)「保護者や地域への情報発信は十分できている(A)」の4及び3評価合計が90%以上 左記調査(保護者)「学校の取組や子供の様子がよく分かった(B)」の4及び3評価合計が90%以上 ② 地方紙等で取組が紹介される回数(年間5回以上) ③ 学校支援ボランティア活用件数 (年間10件以上) ◆左記調査(教員)の「4」に係る該当全項目の4及び3評価合計の平均が90%以上	① A:95% B:97% ② 新聞9回・テレビ1回 ③ 年間11件(のべ35校時182人) ◆「4 コミュニティ・スクールの推進」:91%	A	学校支援組織(応援団)を立ち上げ、授業等へのサポート体制がある程度構築できたので、より円滑に運用していけるよう、調整役(コーディネーター)の配置に努める。また、「共育座談会」など、保護者や地域の方々と広く意見交換できる機会を積極的に設ける。	